



OMRON

Sensing tomorrow™

**2012年度
第1四半期決算
投資家様向け説明会**

**2012年7月30日
オムロン株式会社**



目次

1. 第1四半期実績と通期見通し

第1四半期実績と通期見通しのポイント … P. 2

2012年度 第1四半期実績詳細 … P. 5

2012年度 通期見通し … P.15

2. 参考資料 … P.23

*** 第1四半期決算説明後、ヘルスケア事業の戦略を説明予定**



第1四半期実績と通期見通しのポイント



当社の現状認識

- 2012年度第1四半期業績は、前年同期比で売上高は横ばい、営業利益は減少した。現時点の業績は期初計画の想定内で推移しており、2011年度第4四半期から比較すると制御機器事業を中心に売上高は回復傾向にある。
- 今後の外部環境は、下期に緩やかに回復する全体認識に変更はない。中国市場や自動車関連業界は堅調に推移している。事業環境変化に対しては、短期的には柔軟かつスピードをあげたマネジメントの実行で対応している。その結果として、上期および通期計画どおり達成を見込み、さらに主要全セグメントで増収増益を目指す。引き続きVG2020で掲げた中長期戦略の実行と成長に向けた戦略投資を計画どおりに実行していく。
- なお、2012年度の中間配当金予想は14円とする。



エグゼクティブサマリ

【第1四半期実績】

- 売上高はほぼ前年同期並み、利益は前年同期を下回る(売上高 $\Delta 1.0\%$ 、営業利益 $\Delta 32.7\%$)
- 制御機器事業 (IAB) における前年同期の一時的な売上増(震災影響による需要増)の反動はあるものの、他の事業の売上増により全社では前年同期並みの売上高を確保
- 営業利益は主に為替影響と成長のための投資増加により、前年同期比で減少
(為替影響除くと、売上高1,534億円(+1.3%) 営業利益97億円($\Delta 20.5\%$))
- 為替レート実績: USD 80.4円 EUR 103.4円 (前年同期: USD 81.7円、EUR 118.1円)
- 原材料価格実績: 銅 721円/kg 銀 82,880円/kg (前年同期 銅790円 銀96,455円)

(億円)

	2012年度 1Q実績	2011年度 1Q実績	前年同期比
売上高	1,499	1,514	$\Delta 1.0\%$
営業利益	82	122	$\Delta 32.7\%$
四半期純利益	47	69	$\Delta 31.8\%$

【上期・通期見通し】

- 事業環境認識を踏まえ改めて計画を見直した結果、上期・通期計画どおり達成を見込む。
- 第2四半期以降の為替レート見通し: USD 78円 EUR 97円 (前回見通し USD 78円、EUR 104円)
- 原材料価格見通し: 銅 700円/kg 銀 78,000円/kg (前回見通し 銅 700円 銀 87,000円)



2012年度 第1四半期実績詳細



連結損益計算書

- 売上高はほぼ前年同期並み、利益は前年同期を下回る
(為替影響除くと、売上高1,534億円(+1.3%) 営業利益97億円(△20.5%))
- 売上総利益率は震災影響があった前年同期と比較するとマイナス

(億円)

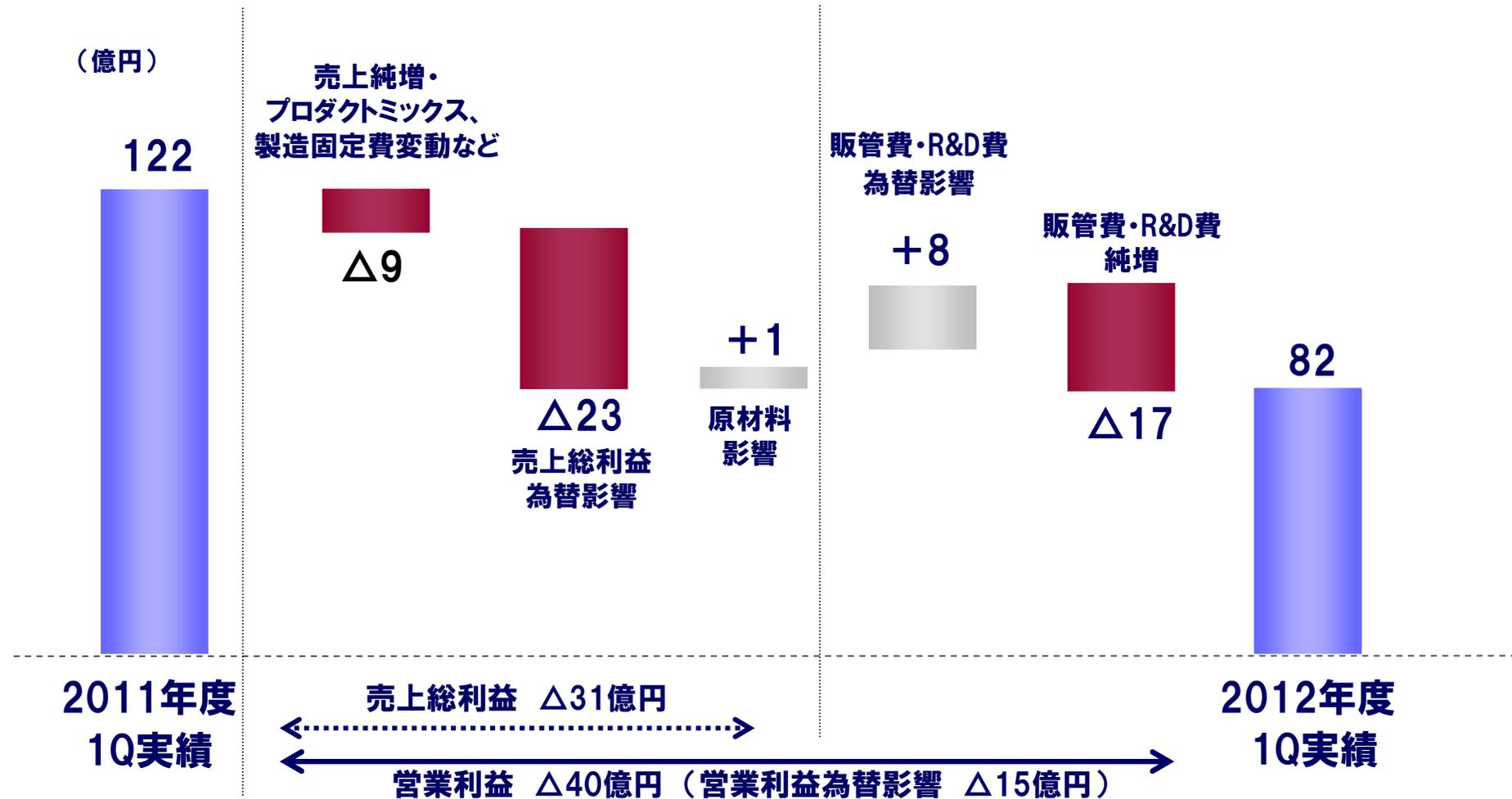
	2012年度 1Q	2011年度 1Q	前年同期比
売上高	1,499	1,514	△1.0%
売上総利益 (売上総利益率)	548 (36.6%)	579 (38.2%)	△5.3% (△1.6P)
販管費	360	356	+1.2%
R&D費	106	101	+4.7%
営業利益 (営業利益率)	82 (5.5%)	122 (8.0%)	△32.7% (△2.5P)
営業外費用	14	7	+99.8%
税引前四半期純利益	68	115	△40.5%
四半期純利益	47	69	△31.8%

USDレート(円)	80.4	81.7	△1.3
EURレート(円)	103.4	118.1	△14.7
銅価格(円)	721	790	△69
銀価格(円)	82,880	96,455	△13,575



営業利益増減分析（前年同期比）

- 主に為替影響により売上総利益が悪化したことに加え、成長に向けての販管費・R&D費を増加させた結果、営業利益は減少。





連結貸借対照表

- 2011年度末で在庫調整が完了。2012年度第1四半期は在庫コントロールを確実に実行している。

(億円)

	2012年6月末	2012年3月末	2011年6月末 (参考)
資産の部	5,178	5,373	5,384
現預金	507	453	640
売上債権	1,224	1,411	1,209
在庫	913	923	908
繰延税金、その他流動資産	298	295	306
固定資産	1,183	1,207	1,176
投資その他資産	1,053	1,084	1,145
負債の部	2,015	2,156	2,201
短期借入金	237	188	304
長期借入金	0	0	0
支払い手形及び買掛金等	692	793	734
退職給付引当金	590	604	641
その他負債	496	571	522
純資産の部	3,163	3,217	3,183
資本金・その他剰余金等	4,385	4,338	4,305
その他包括利益(損失)累計額	△786	△684	△686
自己株式	△445	△445	△446
非支配持分	9	8	10
負債及び純資産合計	5,178	5,373	5,384



連結キャッシュ・フロー計算書

➤ 成長のための投資を確実に実施し、FCFは前年同期を下回る。

(億円)

	2012年度 1Q実績	2011年度 1Q実績	(参考)2011年度 実績
営業活動によるキャッシュフロー	126	133	319
投資活動によるキャッシュフロー	△75	△48	△265
フリー・キャッシュフロー (FCF)	51	86	54
財務活動によるキャッシュフロー	20	△187	△335
換算レート変動の影響	△17	△5	△15
現金及び現金同等物の増減額	55	△107	△295
四半期末の現金残高	507	640	453

設備投資	70	54	283
減価償却費	53	53	226

※四半期での設備投資額は、連結キャッシュ・フロー計算書の資本的支出を適用



事業セグメント別① 売上高

- 制御機器、電子部品、車載事業は、2011年第4四半期から回復傾向
特に車載事業は、前年同期の震災影響の反動で大幅増加
- 社会システム、ヘルスケア事業は、前年同期を上回る

(億円)

	2012年度 1Q	2011年度 1Q	前年同期比	2011年度 4Q	2011年度 4Q比
制御機器事業 (IAB)	660	749	△11.9%	649	+1.6%
電子部品事業 (EMC)	213	204	+4.6%	210	+1.4%
車載事業 (AEC)	241	184	+30.7%	238	+1.3%
社会システム事業 (SSB)	100	96	+4.2%	242	△58.6%
ヘルスケア事業 (HCB)	154	143	+7.2%	161	△4.8%
その他事業	115	122	△5.5%	140	△17.7%
消去調整他	16	16	+0.5%	25	△35.9%
合計	1,499	1,514	△1.0%	1,666	△10.0%



事業セグメント別② 営業利益

➤ 制御機器、電子部品、車載、ヘルスケア事業は、2011年第4四半期から回復傾向

(億円)

	2012年度 1Q	2011年度 1Q	前年同期比	2011年度 4Q	2011年度 4Q比
制御機器事業 (IAB)	78 (11.8%)	124 (16.5%)	△37.2% (△4.7P)	56 (8.6%)	+39.5% (+3.2P)
電子部品事業 (EMC)	20 (9.6%)	23 (11.4%)	△12.2% (△1.8P)	13 (6.4%)	+52.7% (+3.2P)
車載事業 (AEC)	15 (6.3%)	5 (2.5%)	+235.6% (+3.8P)	8 (3.5%)	+79.7% (+2.8P)
社会システム事業 (SSB)	△17 (-)	△20 (-)	- (-)	39 (16.1%)	- (-)
ヘルスケア事業 (HCB)	9 (5.9%)	12 (8.1%)	△22.2% (△2.2P)	△0 (-)	- (+5.9P)
その他事業	△11	△13	-	△6	-
消去調整他	△12	△9	-	△10	-
合計	82 (5.5%)	122 (8.0%)	△32.7% (△2.5P)	100 (6.0%)	△18.2% (△0.5P)

※カッコ内の数字は外部売上高に対する営業利益率



事業セグメント別③ 売上高・営業利益概況

セグメント	売上高、営業利益の概況（前年同期比）	
制御機器事業 (IAB)	売上高	国内:自動車関連業界の設備投資は堅調なものの、半導体・電子部品で低調。 海外:欧州需要低迷するも、北米の自動車関連需要、新興国が堅調。
	営業利益	円高や、震災影響の反動による売上高減少などにより前年同期比減少。
電子部品事業 (EMC)	売上高	国内:民生業界の需要は低調に推移。自動車関連、アミューズメント好調。 海外:欧州、民生業界顧客の在庫調整が継続中。
	営業利益	円高や内部売上の減少により前年同期比減少。
車載事業 (AEC)	売上高	国内:エコカー購入支援策の影響で需要は好調に推移。 海外:欧州での需要は低迷するも、総じて海外は好調に推移。
	営業利益	売上高の増加、前年同期の一時的な生産調整の反動で大幅増加。
社会システム事業 (SSB)	売上高	鉄道事業各社の需要が回復傾向。機器の納入および関連設置工事が拡大。 道路交通管理システムは低迷。
	営業利益	売上高の増加により前年同期比で損失額が減少。
ヘルスケア事業 (HCB)	売上高	国内:家庭向け健康機器の新商品の販売が好調に推移。 海外:新興国での健康機器商品の需要の増加が継続、堅調に推移。
	営業利益	円高の影響により前年同期比で減少。
その他事業 (環境・バックライト・MD・電子)	売上高	環境事業は好調。電子機器、マイクロデバイス、バックライトは低調に推移。
	営業利益	環境事業の売上高の増加により損失額は減少。



エリア別売上高 (円ベース)

- ▶ 中華圏、東南アジアの売上は前年同期の震災の影響による一時的な売上増の反動により前年同期比では下回る。しかし2011年度第4四半期比では、売上は回復傾向。

(億円)

	2012年度 1Q	2011年度 1Q	前年同期比	2011年度 4Q	2011年度 4Q比
日本	703	677	+3.9%	906	△22.4%
米州	201	180	+11.6%	210	△4.2%
欧州	188	229	△17.7%	201	△6.2%
中華圏	269	280	△3.7%	223	+20.9%
東南アジア他	137	148	△7.6%	127	+8.2%
合計	1,499	1,514	△1.0%	1,666	△10.0%



エリア別売上高（同一為替レート比較）

- ▶ 欧州は、為替影響を除くと前年同期で7.0%とマイナスとなる。
（円ベースでは、17.7%）

（億円）

	2012年度 1Q	2011年度 1Q	前年同期比	2011年度 4Q	2011年度 4Q比
米州	206	180	+14.1%	213	△3.4%
欧州	213	229	△7.0%	229	△6.9%
中華圏	268	280	△4.2%	229	+17.3%
東南アジア他	144	148	△2.8%	136	+6.1%

※2012年度1Qおよび2011年度4Qの数値は、2011年度1Qの為替レートに合わせた売上高



2012年度 通期見通し



2012年度 通期見通し

- 売上・利益ともに期初計画どおり達成を見込む。(上期も同様)
- 新興国での売上拡大を梃子に、増収増益を達成する。

(億円)

	2012年度	2011年度	前年度比	期初計画
売上高	6,500	6,195	+4.9%	6,500
売上総利益	2,435	2,279	+6.9%	2,435
(売上総利益率)	(37.5%)	(36.8%)	(+0.7P)	(37.5%)
販管費	1,520	1,457	+4.4%	1,520
R&D費	455	421	+8.1%	455
営業利益	460	401	+14.6%	460
(営業利益率)	(7.1%)	(6.5%)	(+0.6P)	(7.1%)
営業外費用	30	66	△54.5%	30
税引前純利益	430	335	+28.2%	430
当期純利益	285	164	+73.9%	285
USDレート(円)	78.7	79.3	△0.6	78.0
EURレート(円)	99.0	110.3	△11.3	104.0
銅価格(円)	693	738	△45	700
銀価格(円)	78,323	92,379	△14,056	87,000



事業セグメント別① 事業環境認識

	事業環境認識（1Qとの比較）
制御機器事業 (IAB)	国内： 自動車・工作機械業界での設備投資の堅調継続、半導体・電子部品は低調継続 海外： 米州 … 北米での自動車関連投資の堅調継続 欧州 … 輸出関連で下支えあるものの、イタリア・ドイツ低調継続 東南アジア … タイ復興需要落ち着くが堅調に推移 中華圏 … 下期に緩やかな回復を見込む。
電子部品事業 (EMC)	国内： アミューズメント機器などの需要堅調 海外： 米州 … 車載関連の需要堅調継続 欧州 … 金融危機の影響で不透明な状況継続 東南アジア … 主に欧州向け輸出が低調に推移 中華圏 … 民生業界顧客で在庫調整中であるが、緩やかな回復を見込む。
車載事業 (AEC)	国内： エコカー補助金特需の反動減で下期以降減速 海外： 北米市場は堅調、中国の需要増加継続
社会システム事業 (SSB)	環境ソリューションなどの需要増
ヘルスケア事業 (HCB)	国内： 健康管理サービスへのニーズの増加継続 海外： 新興国での健康志向の高まりによる需要増加継続
その他事業 (環境・バックライト・MD・電子)	環境関連は需要増加継続、バックライトは下期回復



事業セグメント別② 通期売上高見通し

- 通期売上の期初計画どおり達成を見込む。(上期売上も同様)
- 主力5事業すべてで増収を達成する。

(億円)

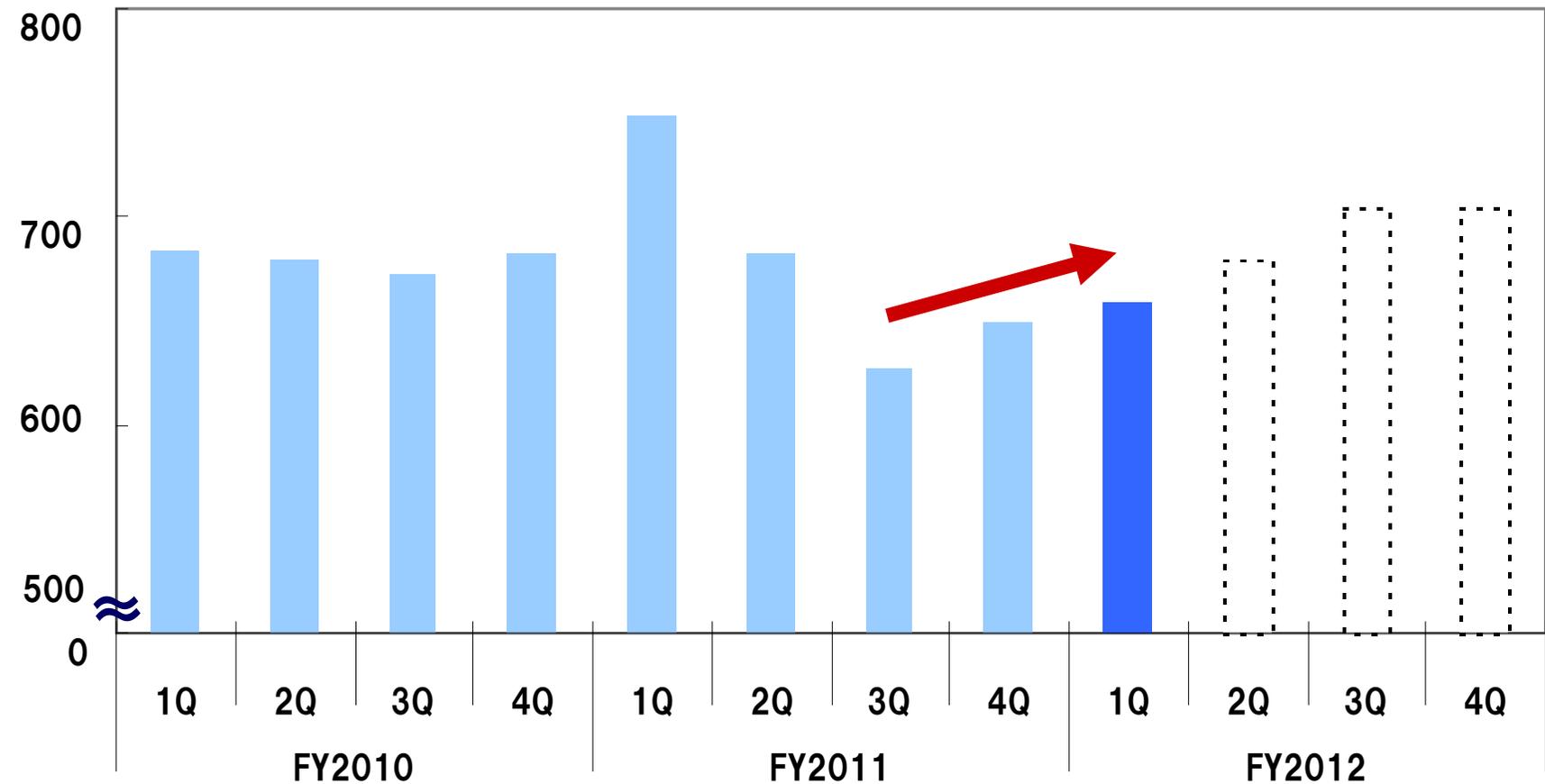
	2012年度 見通し	2011年度 実績	前年度比	期初計画
制御機器事業 (IAB)	2,740	2,708	+1.2%	2,740
電子部品事業 (EMC)	890	830	+7.2%	890
車載事業 (AEC)	950	850	+11.7%	950
社会システム事業 (SSB)	600	572	+4.9%	600
ヘルスケア事業 (HCB)	675	624	+8.1%	675
その他事業	590	535	+10.2%	590
消去調整他	55	76	△25.8%	55
合計	6,500	6,195	+4.9%	6,500



制御機器事業(IAB) 売上見通し推移

- 制御機器事業の売上高は2011年度第3四半期をボトムに回復傾向。
- 下期以降の需要回復に加え、昨年度からの新商品投入や営業強化により下期の売上拡大を見込む。

(億円)



1Q為替レート FY10 USD 91.5円 EUR 116.9円、FY11 USD81.7円 EUR118.1円、FY12 USD80.4円 EUR103.4円



日本

- 自動車関連業界、工作機械は、特に海外向け需要で堅調継続。
- 電子部品・半導体は低調だが、スマートフォン・タブレット端末向けの需要が好調。下期から一部顧客の需要増を見込むが、全体では不透明感あり。

欧州

- 欧州金融危機の影響によりイタリア・ドイツ・スペインを中心に景気低調。食品・自動車業界における輸出による下支えがあるものの、全体では低調に推移すると見込む。

中国

- 業界別にはばらつきがあるものの、下期以降の中国政府の景気刺激策の効果により、内需関連、インフラ投資等の増加を見込む。
- 昨年度から発売している新興国にも対応するグローバルスタンダード商品の拡充により売上拡大を見込む。



家電

- 欧州金融危機の影響により、欧州・中国市場の需要回復に遅れ。
- 下期以降、白物家電向けを中心に中国市場での緩やかな需要回復を見込む。

車載部品

- 欧州市場での生産減はあるが、北米での低燃費車や新興国での小型車の需要増を見込む。

アミューズメント

- 市場は横ばいで推移するものの、当社顧客の好調により、需要増を見込む。



事業セグメント別③ 通期営業利益見通し

- 各セグメントで為替影響はあるが、必要に応じた一般経費のコントロールなどにより通期営業利益の期初計画の達成を見込む。(上期営業利益も同様)
- 主力5事業すべてで増益を目指す。

(億円)

	2012年度 見通し	2011年度 実績	前年度比	期初計画
制御機器事業 (IAB)	350 (12.8%)	333 (12.3%)	+5.0% (+0.5P)	350 (12.8%)
電子部品事業 (EMC)	80 (9.0%)	72 (8.7%)	+10.5% (+0.3P)	80 (9.0%)
車載事業 (AEC)	50 (5.3%)	27 (3.2%)	+85.8% (+2.1P)	50 (5.3%)
社会システム事業 (SSB)	10 (1.7%)	1 (0.2%)	+920.4% (+1.5P)	10 (1.7%)
ヘルスケア事業 (HCB)	40 (5.9%)	29 (4.7%)	+37.1% (+1.2P)	40 (5.9%)
その他事業	△20	△36	-	△20
消去調整他	△50	△25	-	△50
合計	460 (7.1%)	401 (6.5%)	+14.6% (+0.6P)	460 (7.1%)

※カッコ内の数字は外部売上高に対する営業利益率



参考資料



為替・原材料の影響額

<為替レートの1円変動による影響額(通期)>

通貨	売上への影響額	営業利益への影響額
USD	約28億円	約7億円
EUR	約8億円	約4億円

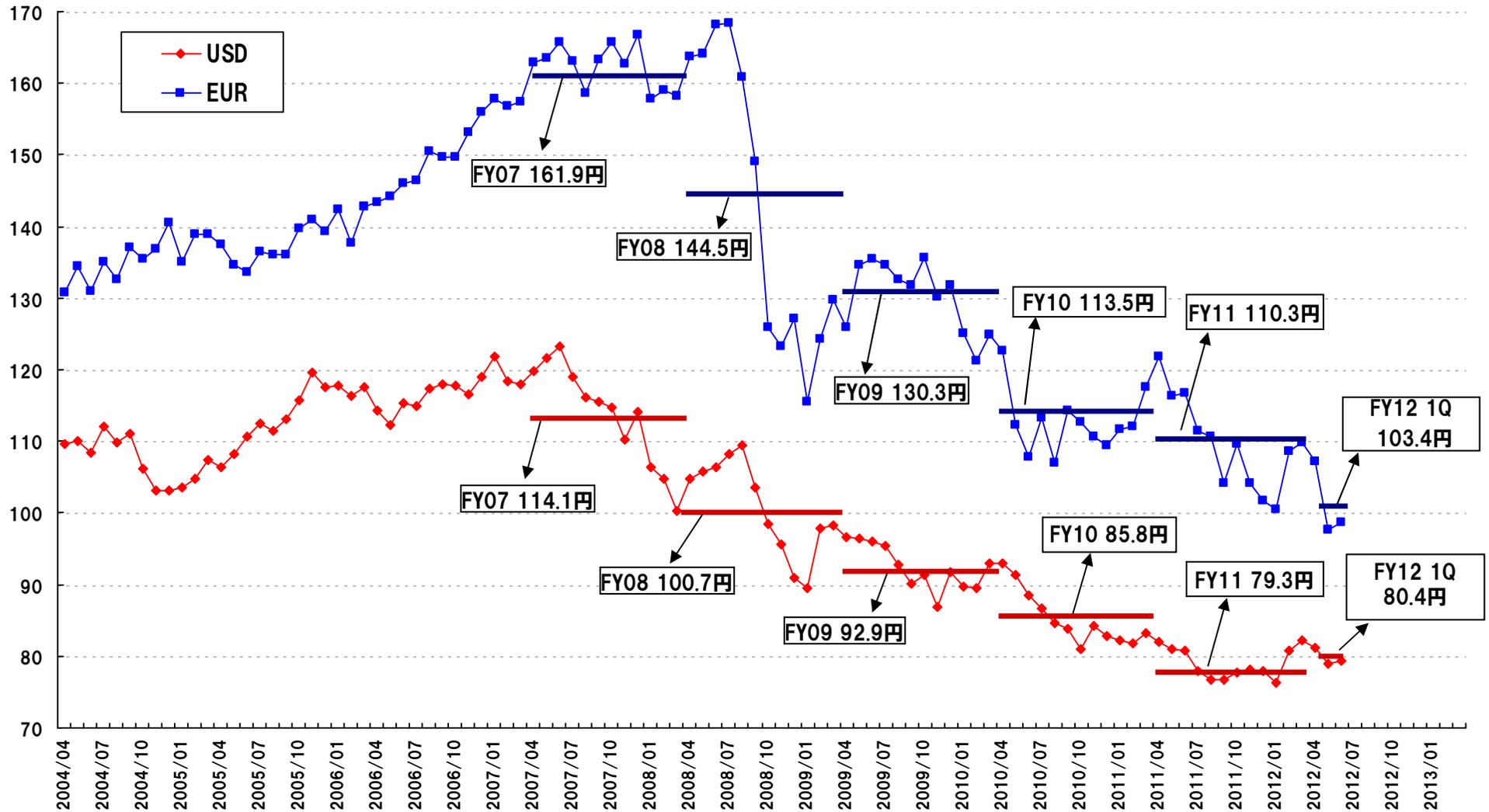
<銀・銅の価格変動による影響額(通期)>

原材料	変動額	営業利益への影響額
銀	1,000円/kg	約1億円
銅	10円/kg	約1億円



為替レートの推移(ドル、ユーロ)

USD/EUR(円)

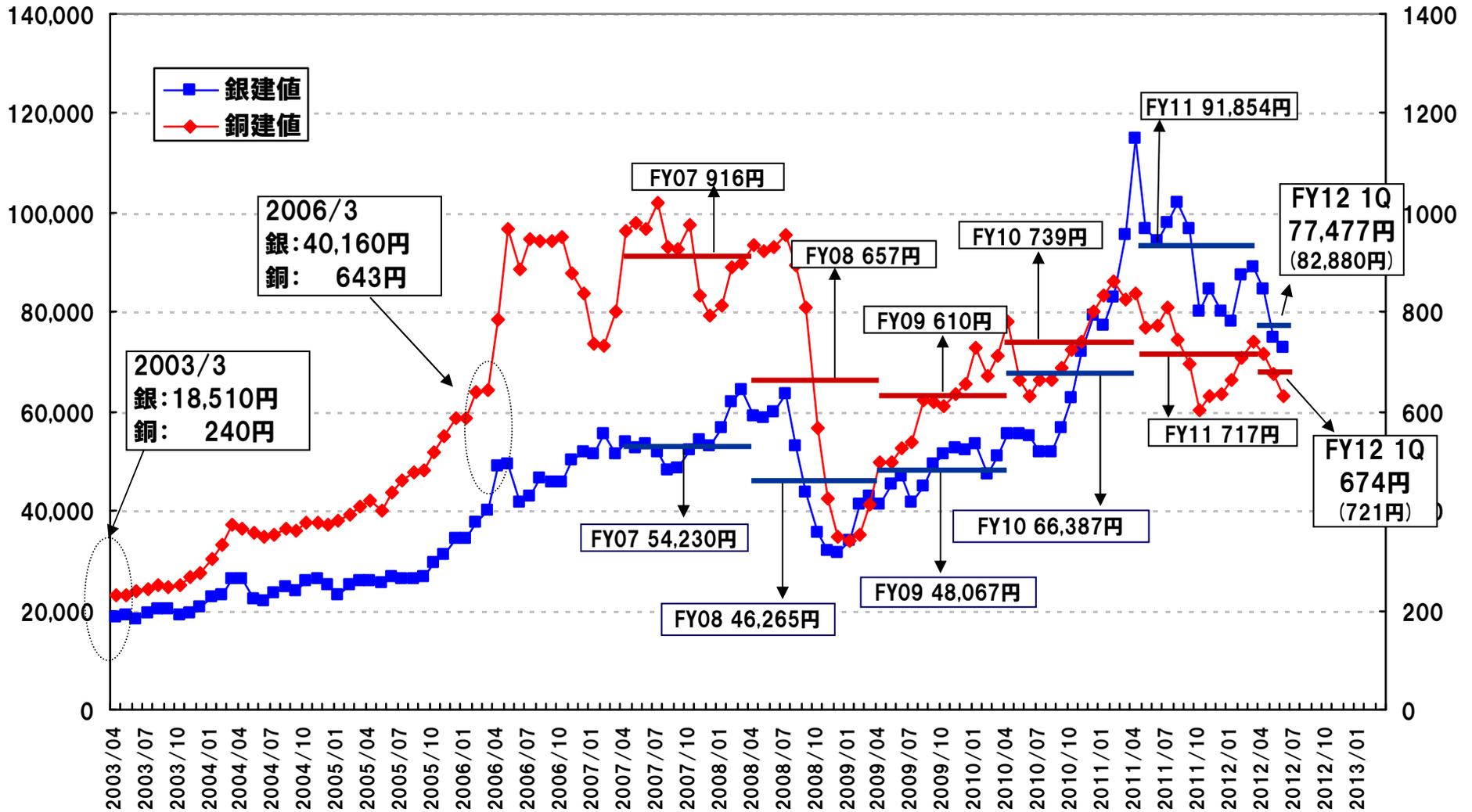




原材料価格の推移(銀、銅)

銀建値(円/kg)

銅建値(円/kg)



※グラフ中の数値は、期中の建値の単純平均値、FY12 1Qのカッコ内数値は決算数値算出用の平均値



オムロンの事業内容

(その他)

液晶バックライト、半導体・MEMS、
省エネ・環境ビジネス、電子機器など

(エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス)

リレー、スイッチ、コネクタ、
アミューズメント機器用部品、
モバイル機器搭載部品など

電子部品事業
(EMC)

- ・電気信号センシング
- ・電流・電圧制御

その他事業

(オートモーティブエレクトロニック
コンポーネンツビジネス)

キーレスエントリーシステム、
パワーウィンドウスイッチ、
電動パワーステアリングシステムなど

車載事業
(AEC)

- ・電波センシング
- ・ボディ制御

制御機器事業
(IAB)

ヘルスケア事業
(HCB)

(ソーシャル

システムズ・ソリューション&
サービス・ビジネス)
自動改札機、自動券売機、
道路情報提供システム、
セキュリティマネジメントシステム、
顔認識システムなど

社会システム事業
(SSB)

- ・人センシング
- ・車両センシング
- ・ICカード技術

センシング
&
コントロール

(ヘルスケアビジネス)

電子血圧計、体重体組成計、電子体温計、
歩数計、ネブライザ、動脈硬化検査装置、
生体情報モニタなど

- ・生体情報センシング
- ・行動情報センシング

(インダストリアルオートメーションビジネス)

近接/光電/視覚センサ、PLC、温度調節器、
セーフティ機器、各種検査装置など

- ・変位・測長センシング
- ・温度コントロール
- ・マシンコントロール
- ・画像センシング

連結子会社数等

連結子会社数等	151
持分法適用関連会社数	12

※2012年6月末時点



<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、(i) 当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢、(ii) 当社製品・サービスに対する需要動向、(iii) 新技術開発・新商品開発における当社グループの能力、(iv) 資金調達環境の大幅な変動、(v) 他社との提携・協力関係、(vi) 為替・株式市場の動向、(vii) 事故・震災などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

<お問い合わせ>

オムロン株式会社

経営IR室 経営IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp